

2025 年 8 月 25 日

米国の LNG 開発を牽引するビッグスリー

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト 橋本 裕

はじめに

米国の LNG 輸出業界では、近年、LNG 液化・輸出インフラ大手の **Cheniere Energy**、**Sempra**、**Venture Global** の 3 社が有力な LNG 輸出企業として台頭し、従来の国際 LNG 業界の大手企業とは一線を画す独自の地位を築いていることが明白である。

米国 LNG 輸出産業は、僅か 10 年で、ガスの純輸入国から世界最大の LNG 輸出国へと変貌を遂げ、世界の LNG 情勢を根本的に変貌させた。このパラダイムシフトを牽引しているのは、企業行動が機敏で非統合型の新しいプレーヤーであり、米国での LNG 輸出開発においては、国際的な巨大企業に取って代わった。

これら 3 大 LNG 輸出開発企業の台頭は、戦略的優位性、具体的なビジネスモデル、有利な市場環境の組み合わせによるものだった。

これら米国 LNG 開発者の成功は、米国の低コストのガス生産に基づくヘンリーハブ価格連動の LNG 価格設定、仕向地が自由で柔軟な LNG 販売契約、そして戦略的な位置となるガルフ地域に立地という共通の強みに基づいている。しかし、各社のここまでの道のりはそれぞれ異なっている。前記の 3 社について、**Cheniere** 社は先駆的に新たなビジネスモデルを開拓し、**Sempra** 社は安定した公益事業基盤を活用してリスクの少ないインフラストラクチャープレーヤーとなり、**Venture Global** 社はモジュール式の費用対効果の高い建設戦略で LNG 業界を揺るがした。これらの革新は、課題がないわけではない。LNG 輸出設備が、ハリケーンが頻発するガルフ地域にインフラストラクチャーが地理的に集中していることや、米国エネルギー省(DOE)による 2024 年の輸出許可手続きの一時停止に代表される不安定な国内規制環境等リスクに直面している。

従来の LNG 国際的なプレーヤー (IOC や NOC) は後退しているわけではなく、米国でも戦略的パートナーシップを結び、長期的な買主となり、他国、例えばカタールでの **North Field** 拡張のような大規模で低コストのプロジェクトを通じて市場プレゼンスをさらに拡大するなど、適応を進めている。今後数年間は、市場への参入競争、世界的な競争の激化、そして LNG 生産国における政治的圧力と国際的なエネルギー安全保障の要求とのバランスをとりながら事業を進めることとなる。

本稿では、特に前記 3 社について、大きな関心が集中する次のような事項について、ふれることとする。

- ✓ これら 3 社の優位性、共通の優位性、個社の優位性、あるいはなんらかのマイナス面があるとすれば、何か、ということ。
- ✓ 米国でのこれら 3 大 LNG 企業の起源はどのようなものか。3 社はいずれも固有のバックグラウンドを持っており、これに基づき、LNG 産業における大手企業となってきた。
- ✓ これら 3 社は、過去数年間にどのようなことを実現してきたのか、同時にどのような課題を抱えてきたのか。今後数年間に直面する課題は何なのか。これらの LNG プロジェクトから LNG を引き取る買主にとって盲点となるような事情はあるのか。
- ✓ これら 3 社とのビジネスに関して、従来型の国際 LNG 企業の基本戦略、あるいは戦術はどのようなものか。

1 3 社の優位性

1.1 共通の強味

- 1.1.1 低コストの原料天然ガスにアクセスできることにより、多くはヘンリーハブ指標連動の価格決定方式により、競争力ある価格で LNG をオファーすることができる。
- 1.1.2 フレキシブルなコマーシャルモデルにより、FOB(本船渡し) 条件を LNG 買主にオファーすることができる。買主が海上輸送を受け持ち、LNG の仕向け先も選ぶことができる。
- 1.1.3 米ガルフ地域の戦略的な立地により、天然ガスパイプライン網への直接のアクセス、太平洋地域・大西洋地域ともにアクセスが得られる。もともと、地域の集中が懸念材料となることもあり得る。

1.2 個別の強味

- 1.2.1 **Cheniere Energy** は、先行者の優位性を享受しており、世界最大級の液化基盤を持ち、多彩な買主基盤を有している。GHG 排出管理対策・情報提供にも先駆的な取り組みを実行している。
- 1.2.2 **Sempra** の LNG ビジネスは、より広範囲のインフラストラクチャー開発の一環であり、既存の資産や関係を優位に活かすことができる。
- 1.2.3 **Venture Global** は、革新的・低コストのビジネスモデル、急速なプロジェクト実行力を有し、新規容量を迅速に稼働開始させている。

2 3 社の起源

- 2.1 **Cheniere Energy** は 1996 年創業し、従来は LNG 輸入に焦点を置いていた。2010 年代初期から LNG 輸出開発に取り組む。
- 2.2 **Sempra** は 1998 年、カリフォルニア州の公益事業企業間の合併で形成。LNG 事業は、インフラストラクチャー・公益事業起源からの延長線上にある。
- 2.3 **Venture Global** は 2013 年、エネルギー分野のプロフェッショナル数人により創立された。モジュラー建設によりプロジェクト早期建設を先駆してきた。

3 近年の実績

- 3.1 **Cheniere Energy** は引き続き液化容量の拡張を実現している。最新では Corpus Christi 設備における新系列液化設備を完成している。
- 3.2 **Sempra** は Port Arthur LNG プロジェクトを着実に進展しており、資金調達を確保し、建設を進展している。
- 3.3 **Venture Global** は新規プロジェクトを市場にもたらす「前例のない」実行力を体現しており、短期間で複数のプロジェクトの FIDs(最終投資決定)を実現してきた。同社は、コミッショニングカーゴ(試運転期間中のカーゴ)出荷に関する主要顧客との法的紛争に巻き込まれていた。

4 伝統的国際 LNG 企業の戦略

伝統的国際 LNG 企業は、3 大 LNG 企業により単に「代替されて」いるわけではなく、新たな市場のダイナミクスに自らの戦略を調整している。

- 4.1 これら多くの企業が米国産 LNG の長期の引き取り手となり、供給ポートフォリオを多様化し、価格安定性を確保している。
- 4.2 米国から LNG を引き取ることで供給ポートフォリオ拡張を加速し、米国産 LNG のフレキシビリティを自らの優位として活用し、グローバルでの顧客基盤に対してフレキシブル供給をもたらしている。
- 4.3 時として米国での LNG プロジェクトに出資する。
- 4.4 米国市場で活動しつつも、カタール、モザンビーク、豪州などの世界他地域での伝統型、大規模 LNG プロジェクトへの投資も維持し、供給基盤の多様化を維持している。

問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp